

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2005 年 9 月 29 日 (29.09.2005)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2005/089588 A1

- (51) 国際特許分類: A45D 34/04, B65D 51/32
(21) 国際出願番号: PCT/JP2005/004629
(22) 国際出願日: 2005 年 3 月 16 日 (16.03.2005)
(25) 国際出願の言語: 日本語
(26) 国際公開の言語: 日本語
(30) 優先権データ:
特願2004-077710 2004 年 3 月 18 日 (18.03.2004) JP
(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社
コーセー (KOSE CORPORATION) [JP/JP]; 〒1038251
東京都中央区日本橋 3 丁目 6 番 2 号 Tokyo (JP).
(72) 発明者; および
(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 栗原 充 (KURI-
HARA, Mitsuru) [JP/JP]; 〒3501306 埼玉県狭山市富

士見 2 丁目 2 0 番 1 号 株式会社コーセー内 Saitama
(JP).

(74) 代理人: 小野 信夫 (ONO, Nobuo); 〒1010024 東京都千
代田区神田和泉町 1-1 3-1 水戸部ビル 4 階 Tokyo
(JP).

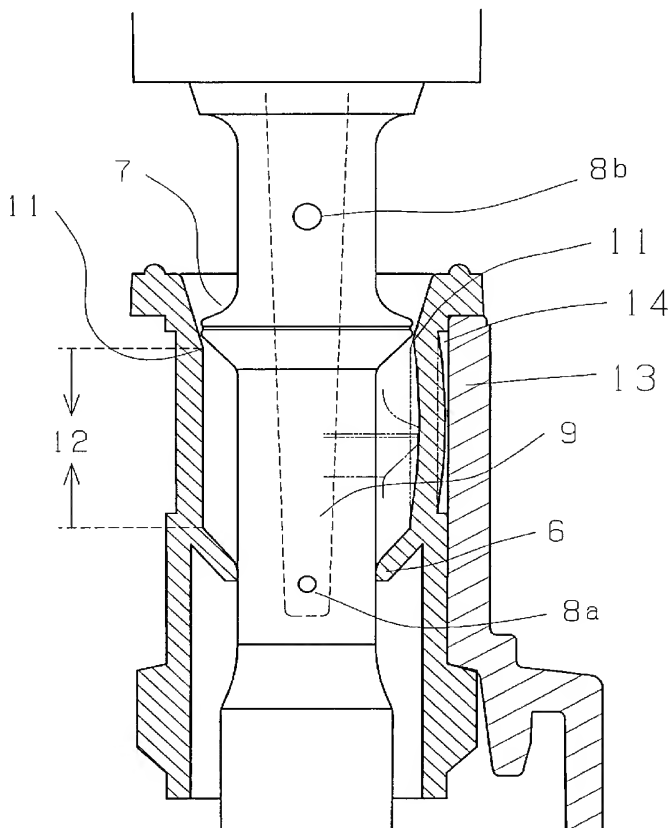
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が
可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR,
BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM,
DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU,
ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS,
LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA,
NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE,
SG, SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG,
US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護
が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA,

[続葉有]

(54) Title: CONTAINER WITH APPLICATOR

(54) 発明の名称: 塗布体付き容器



(57) Abstract: A container with an applicator, which is, although simple in structure, capable of solving a problem of crud adhered to a scraping section ejecting to a mouth of the container. More particularly, a container with an applicator, constituted of a container body and a lid body having a shaft body at the head of which an applicator is installed. A scraping section is provided on the container body mouth and an annular projection is provided on the shaft body of the lid body. Further, small air communication holes are provided above and below the annular projection of the shaft body, and the holes enable air to communicate through the inside of the shaft body.

(57) 要約: 簡単な構造でありながら、しごき部に付着した汚れが容器の口元に噴出するという問題を解決することのできる塗布体付き容器であって、更に詳細には容器体と、先端に塗布体が設けられた軸体を有する蓋体とよりなる塗布体付き容器において、前記容器体口部にしごき部を、前記蓋体の軸部に環状突起を設け、更に前記軸体の環状突起の上と下に、軸体内を通じ空気を流通可能とする微小な空気流通孔を設けてなることを特徴とする塗布体付き容器。

WO 2005/089588 A1



SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各*PCT*ガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

明 細 書

塗布体付き容器

技術分野

[0001] 本発明は、塗布体付き容器に関し、更に詳細には、ペースト状リップグロス、ペースト状口紅、マスカラ等のある程度の粘性の化粧料について、塗布体に余分に付着した化粧料を落とすためのしごき部を有しながら、圧力変化による内容物や汚れ物の噴出を防ぐことのできる塗布体付き容器に関する。

背景技術

[0002] 従来から、マスカラ、液状アイライナー、ペースト状口紅、ペースト状リップグロス、マニキュア等のメイクアップ用化粧組成物は、睫毛、目周辺、口唇、爪等に付着させる必要があるため、ある程度の高粘性を有するものが多い。そして、これらの化粧料は、組成物が入った筒状の容器と、塗布体を有する蓋部から構成されることが多いが、組成物の粘性が高く、塗布体に余分に付着することが多いため、容器の開口部近くに、しごき部を設け、余分の組成物を拭き落とすようにすることが多かった。

[0003] しかしながら、このようにしごき部を設けると、容器内部と外部との間での空気の流通が妨げられ、特に塗布体の挿入に伴う圧力変化により、しごき部に付着した組成物が汚れとなって容器の口元に噴出するという問題があった。

[0004] このような問題に対しては、しごき部の形状や材質の工夫、塗布体を取り付ける筆軸の形状の工夫、しごき部と筆軸の間隔調整等で対応しているが、使用しやすさと汚れ噴出の解消の両方を満足させることは困難であった。

[0005] 上記の問題を解消する手段の一つとして、しごき部（払拭部材）の両側に通気のための微小孔を設けることも行われている（例えば、特許文献1参照）。

[0006] しかし、しごき部の中心から外れた部分に微小孔を開けることは、作業的に難しく、煩雑な工程が必要になり実用性に欠けるという問題があった。

[0007] また、筆軸を中空として、ここから空気を流通させて容器内外の圧力差をなくすことも試みられている（例えば、特許文献2参照）。

[0008] この特許文献2の粘性液用容器は、筆軸を中空状として長い空気流通路を設けた

ものであり、ここから組成物が漏出することを前提に、蓋内にこれを吸着する多孔質体が設けられているものであった。しかし、蓋の中に多孔質体を設けることは構造的に煩雑となると共に、最終的には、多孔質体が組成物で詰まり、空気流通路の意味がなくなるおそれもあるものである。

[0009] 特許文献1:特開平9-238741号

特許文献2:実公昭60-33868号

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0010] 従って、簡単な構造でありながら、しごき部に付着した汚れが容器の口元に噴出するという問題を解決することのできる塗布体付き容器の開発が求められていた。

課題を解決するための手段

[0011] 本発明者は、上記課題を解決すべく、特に特許文献2に示すような筆軸を中空状として空気流通路を設ける容器について検討を行った。そしてその結果、この容器が蓋の中に多孔質体を設けなければならない理由は、長すぎる空気流通路を有するため、容器の内外の圧力差が大きくならないことに気づいた。すなわち、蓋を開けるときは容器内の圧力が低下し、一旦空気流通路に流れ込んだ組成物を容器中に引き戻す力が働くはずであるが、あまり圧力差がない場合には完全には容器中に戻らない。そして、再度組成物が空気流通路に流れ込むと、残存した組成物は順次空気流通路を移動することになり、最終的には多孔質体に吸収させることが必要となるのである。

[0012] 本発明者は、この知見に基づき、容器の蓋を開けるときに確実に空気流通路から組成物を容器中に引き戻す機構を研究し、本発明を完成した。

[0013] すなわち本発明は、容器体と、先端に塗布体が設けられた軸体を有する蓋体とよりなる塗布体付き容器において、前記容器体口部にしごき部を、前記蓋体の軸体に環状突起を設け、更に前記軸体の環状突起の上と下に、軸体内を通じ空気を流通可能とする微小な空気流通孔を設けてなることを特徴とする塗布体付き容器である。

発明の効果

[0014] 本発明の塗布体付き容器1によれば、化粧組成物が容器の口元に噴出するという問題を解消することができるので、高粘性の化粧料を充填する容器として安心して使用することができる。

発明を実施するための最良の形態

[0015] 以下、本発明の塗布体付き容器の一態様を示す図面と共に本発明を更に詳しく説明する。

[0016] 図1は、本発明の塗布体付き容器(円柱状)の、蓋を閉めたときの状態を示す一部切り欠き図であり、図2は蓋を開けるときの状態を示す一部切り欠き図、図3は、蓋を閉めるときの状態を示す一部切り欠き図である。また図4は、蓋体に取り付けられる取り付け部と軸体を示す図面である。図中、1は塗布体付き容器、2は容器体、3は蓋体、4は軸体、5は塗布体、6はしごき部、7は環状突起、8は空気流通孔、9は空気流通部、10は取り付け部を示し、Aは化粧料組成物を示す。

[0017] 本発明の塗布体付き容器1の容器体2は、細い円筒状であり、その上部の口部内側には、しごき部6が設けられている。また、容器体2上端の開口部は、シールにより、気密が維持される。

[0018] 一方、塗布体付き容器1の蓋は、蓋体3と、取り付け部10を介してこれに取り付けられた軸体4よりなり、軸体4の先端には塗布体5(図ではブラシを模式的に描いている)が設けられている。また、軸体4の手元側は、中空になっており、空気流通部9を形成する。更に、この手元側には、環状突起7が設けられ、この上および下に前記空気流通部9とつながる空気流通孔8aおよび8bが開けられている。この空気流通孔8aおよび8bの間隔はなるべく短いことが好ましく、例えば、1〜3cm程度、特に0.5〜1cmが望ましい。

[0019] 上記環状突起7の下面は、蓋体を完全閉じたときに上記しごき部6の上面と密接するものとして、容器体2内を気密に保ち不要な化粧組成物Aの残存を防ぐことが好ましい。

[0020] 本発明の塗布体付き容器1は、使用しないときは、図1に示すように、容器体2の開口部のシールにより気密が保たれているが、これを開けると図2に示すように蓋体3が上昇する。そして、この上昇に伴い、軸体4も上昇する結果、容器体2内は減圧状態

となる。そして、この状態では、軸体4としごき部6の間は密接しているので、空気は環状突起7の上の空気流通孔8bから空気流通部9を通り、環状突起7の下の空気流通孔8aから容器体2内部に流れ込む。この際、空気流通部9内に化粧組成物Aが漏出している場合は、これも空気と一緒に容器体2内に戻る。

[0021] 一方、使用後に蓋を閉める場合は、図3に示すように、塗布体5から軸体4が容器体2内に挿入されていくが、これにより容器体2内の圧力は高まる。そして、高まった圧力は、密封寸前にしごき部6の下に位置する空気流通孔8aから空気流通部9および空気流通孔8bを通り抜けてゆく。前記したように、漏出する化粧組成物Aが空気流通部9にもしあったとしても、これは蓋体を開けた時に容器体内に戻っているため、化粧組成物Aが空気流通孔8bから空気と共に吹き出すことはない。

[0022] 本発明の塗布体付き容器1は、(i)空気流通部9とこれにつながる空気流通孔8a、8bの存在と、(ii)この空気流通孔8aが環状突起7の下に、空気流通孔8bが環状突起7の上にあるという位置の点に特徴があるものであり、それ以外は、通常の塗布体付き容器と同様で良い。

[0023] 例えば、塗布体5としては、図に示したような形状のブラシに限定されるものではなく、球状ないしは楕円球状、断面円形ないし楕円形の円筒状（先端部は円球状、平面状、斜平面状等、特に制限しない）、円錐台筒状、へら状、ねじ状、くし状等の剛体または弾性体で形成される塗布体、またはこれらに静電植毛したもの等、内容物を塗布できるものであれば良い。材質も金属をはじめ、ナイロンやジュラコン等のプラスチック、ポリウレタン、ポリエステル等のエラストマー等、何れのものも使用できる。また、容器体2としても、円柱のみならず、四角柱等の多角柱であっても良く、材質も、透明ないし半透明のガラス、プラスチック等であっても良く、金属等の不透明なものであっても良い。更に、しごき部6も、図に示すような、開口部のシールと一体化した部材で形成されたものに限らず、容器と一体化して形成されたものであっても、また、リング状部材を挿入したものであっても良い。

[0024] 次に、本発明の塗布体付き容器の別の態様を図6に示す。6はしごき部、7は環状突起、8は空気流通孔、9は空気流通部、11は摺動開始部、12は摺動部、13は容器体口部、14は空間をそれぞれ示す。

- [0025] 図6の実施態様においては、環状突起7の径を摺動部12内径よりも大きくし、摺動部12に弾力性をもたせることで、環状突起7および摺動部12がより一層密接し、よって開口部のシール機能はより強化されている。また、空気流通孔8aの位置を、環状突起7が摺動開始部11に接したときにしごき部6のシールを外れるようにしたことで、シール機能および、軸体4に付着した化粧料組成物Aの押し込み機能が強化されている。
- [0026] 図6の環状突起7の径は、摺動部12内径よりも大きくなっているが、環状突起7の摺動そのものを妨げるほどのものではない。そして、環状突起7の摺動に応じて摺動部12が適宜に撓むことにより、環状突起7は摺動部12に確実に密接した状態で摺動することが可能になる。この摺動部12の撓みは、例えば本実施態様のように、摺動部12の裏側すなわち外周部を抜き、摺動部12の肉厚を薄くして、好ましくは容器体口部13(片側だけ図示)の内側と摺動部12の外側との間に空間14を設けて弾性力を増加させ、更に摺動部12の材質をゴムなどの弾力性を有する材質にすることにより可能となる。
- [0027] この実施態様での各部分の作用を、図5により、より詳しく説明する。図5中、aないしcは、本発明の塗布体付き容器(円柱状)の、蓋を閉めたときの状態から蓋を外すまでの一連の状態を示す一部切り欠き図であり、図5中、dないしgは、蓋を開けた状態から蓋を閉めるまでの一連の状態を示す一部切り欠き図である。
- [0028] 空気流通孔8aは、図6に示すように、環状突起7が摺動開始部11に当接したときにしごき部6のシールを外れる位置に形成されている。すなわち、図5dに示すように、蓋体3を容器体2に収納する作業において、ちょうど、環状突起7が摺動開始部11に当接する位置まで押し下げられた時点で、空気流通孔8aがしごき部6のシールを外れて、容器体2内に位置する部分に形成されている。ここで、蓋体の開閉による容器内と外部との間で圧力差をより大きなものとするためにも、空気流通部9の距離、すなわち、空気流通孔8aと空気流通孔8bとの間隔はなるべく短い方が望ましいのは既に述べたとおりであるが、以下の理由により当該位置であることがより好ましい。
- [0029] すなわち、使用後に蓋を閉める場合は、塗布体5から軸体4が容器体2内に挿入されていくが、この際軸体4としごき部6の間がシールされるため、これにより容器体2内

の圧力は徐々に高まる。そして、軸体4に付着していた化粧料組成物Aは、しごき部6のシールにより、摺動部12内に蓄積される。

[0030] そして、更に、軸体4の容器体2内への挿入を、環状突起7が摺動開始部11に当接する位置まで進めた時点で(図5d参照)、空気流通孔8aがしごき部6のシールを外れるため、加圧状態となっていた容器体2内の空気が、空気流通孔8aから空気流通部9および空気流通孔8bを経て外部へと通り抜けてゆく。ここにいたって、容器体2内は空気流通部9により外部と通じるために、以降、軸体4の容器体2内への挿入を進めて、蓋体3により容器体2を完全に密閉するまで、容器体2の空気圧は常圧に保たれる。

[0031] 一方で、軸体4の容器体2内への挿入を、図5dから図5gに示すように、環状突起7が摺動開始部11から摺動部12を移動し、しごき部6に当接する位置まで進める過程で、環状突起7およびしごき部6のシールにより、環状突起7およびしごき部6の間の空間は常圧から加圧状態に変化する。そして、上述のとおり、環状突起7と摺動部12との密接度、すなわちシールはより強化されているので、加圧された空気は、当該空間に蓄積されている化粧料組成物Aとともに、常圧状態の容器体2内へと押し込まれることになる。

[0032] 以上の通り、本実施態様においては、空気流通孔8aを、環状突起7が摺動開始部11に当接したときにしごき部6のシールを外れる位置に形成したことにより、環状突起7による摺動をスムーズにするとともに、容器体2内への化粧料組成物Aの押し込み機能が強化されている。

[0033] 更に、本実施態様においては、空気流通孔8aを通じて空気流通部9内へ漏出する化粧組成物Aの量をより減少させるために、空気流通孔8aの径を、空気流通孔8bの径と同じかまたはそれよりも小さくすることが好ましく、例えば、空気流通孔8bの直径を0.8〜1.0mm程度にした場合、空気流通孔8aの直径を0.5mm〜0.8mm程度にするのが望ましい。

[0034] また、本実施例においては、軸体4の強度を確保するために、軸体の太さ、とりわけ、空気流通孔が形成されている部分を中心に太くし、また軸形状もくびれを少なくすることで、強度の確保を図っている。

- [0035] 本発明の塗布体付き容器1は、粘性のある種々の溶液の容器として使用できるが、特に高粘性の化粧料、例えば、マスカラ、液状アイライナー、ペースト状口紅、ペースト状リップグロス、マニキュア等のメイクアップ化粧料として有利に利用することができる。
- [0036] 本発明は、短い距離の空気流通部を設けることにより、しごき部に付着した組成物が汚れとなって容器の口元に噴出するという問題を解消したものである。すなわち、蓋体の開閉により、容器内と外部との間で圧力差が生じるが、同じ体積変化であっても短い空気流通部を設けているために、ここでの圧力変化は相対的に大きくなり、保存中に漏出した化粧組成物を確実に容器内に戻す圧力を得ることができるのである。
- [0037] また、このように容器内外の圧力差を解消する流路（空気流通孔8a—空気流通部9—空気流通孔8b）を持っているために、軸体およびしごき部の隙間から化粧組成物が噴出することはない。
- [0038] これに対し、空気流通部が長い場合は、一定の体積変化に対する圧力変化が小さいため、保存中に漏出した化粧組成物を完全に戻すことは困難であり、これに対する何らかの対応が必要となる。

図面の簡単な説明

- [0039] [図1]本発明の塗布体付き容器の、蓋を閉めた状態を示す一部切り欠き図。
[図2]本発明の塗布体付き容器の、蓋を開けるときの状態を示す一部切り欠き図。
[図3]本発明の塗布体付き容器の、蓋を閉めるときの状態を示す一部切り欠き図。
[図4]蓋体に取り付けられる取り付け部と軸体を示す図面。
[図5]本発明の塗布体付き容器の、蓋を閉めたときの状態から蓋を外すまでの一連の状態を示す図。
[図6]本発明の塗布体付き容器の、環状突起が摺動開始部に当接したときの状態を示す一部切り欠き図。

符号の説明

- [0040] 1 …… 塗布体付き容器
2 …… 容器体

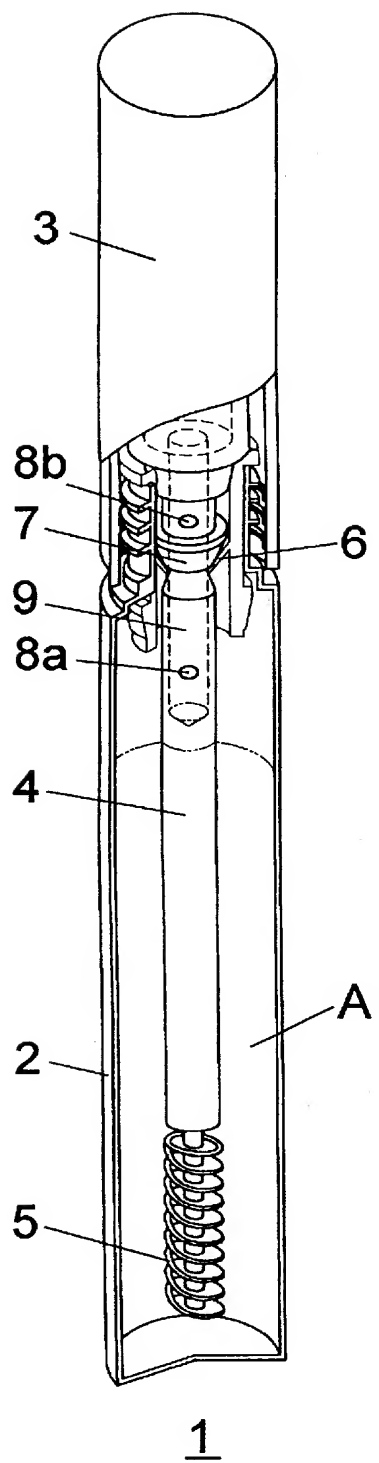
- 3 …… 蓋体
- 4 …… 軸体
- 5 …… 塗布体
- 6 …… しごき部
- 7 …… 環状突起
- 8 …… 空気流通孔
- 9 …… 空気流通部
- 10 …… 取り付け部
- 11 …… 摺動開始部
- 12 …… 摺動部
- 13 …… 容器体口部
- 14 …… 空間
- A …… 化粧品組成物

以 上

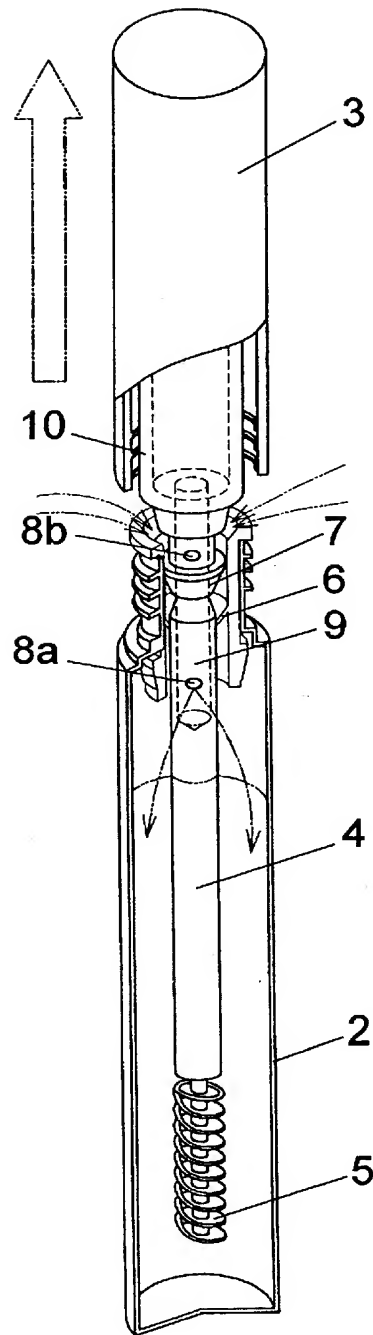
請求の範囲

- [1] 容器体と、先端に塗布体が設けられた軸体を有する蓋体とよりなる塗布体付き容器において、前記容器体口部の内側にしごき部を、前記蓋体の軸部に環状突起を設け、更に前記軸体の環状突起の上と下に、軸体内を通じ空気を流通可能とする微小な空気流通孔を設けてなることを特徴とする塗布体付き容器。
- [2] 環状突起が、蓋体を完全に閉じたときに前記しごき部と密接するものである請求項第1項記載の塗布体付き容器。
- [3] 軸体の環状突起の下部が逆円錐台形状であることを特徴とする請求項第1項または第2項記載の塗布体付き容器。
- [4] しごき部上部壁面に弾性を有する摺動部を設けたことを特徴とする請求項第1項ないし第3項の何れかに記載の塗布体付き容器。
- [5] 摺動部の裏側を抜いて肉厚を薄くし、容器体口部の内側と摺動部の外側との間に空間を設けたことを特徴とする請求項4記載の塗布体付き容器。
- [6] 環状突起の下に形成された空気流通孔が、環状突起が摺動開始部に当接する位置まで押し下げられた時点でしごき部のシールを外れて容器体内に位置するように設けられたことを特徴とする請求項第1項ないし第5項の何れかに記載の塗布体付き容器。
- [7] 環状突起の下に形成された空気流通孔の径を、環状突起の上に形成された空気流通孔の径と同じかまたはそれよりも小さくしたことを特徴とする請求項第1項ないし第6項の何れかに記載の塗布体付き容器。

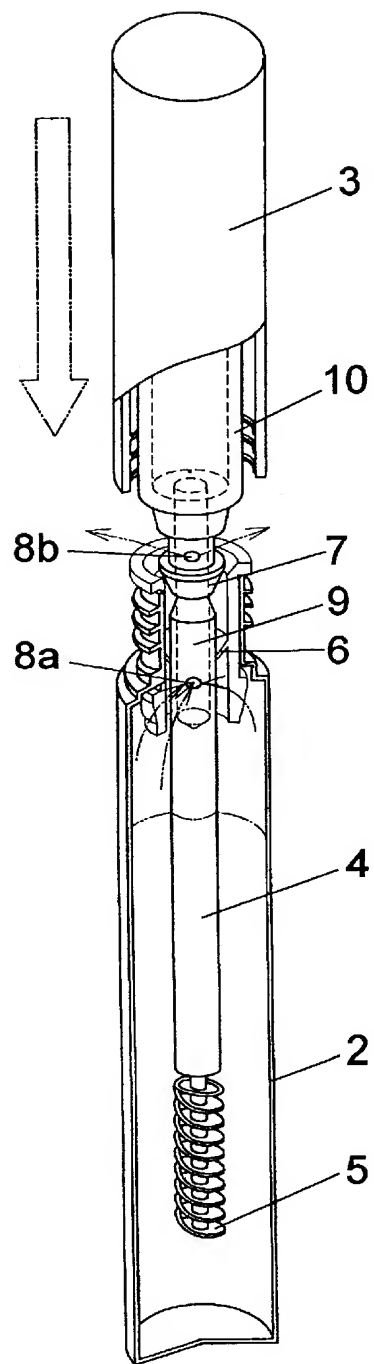
[図1]



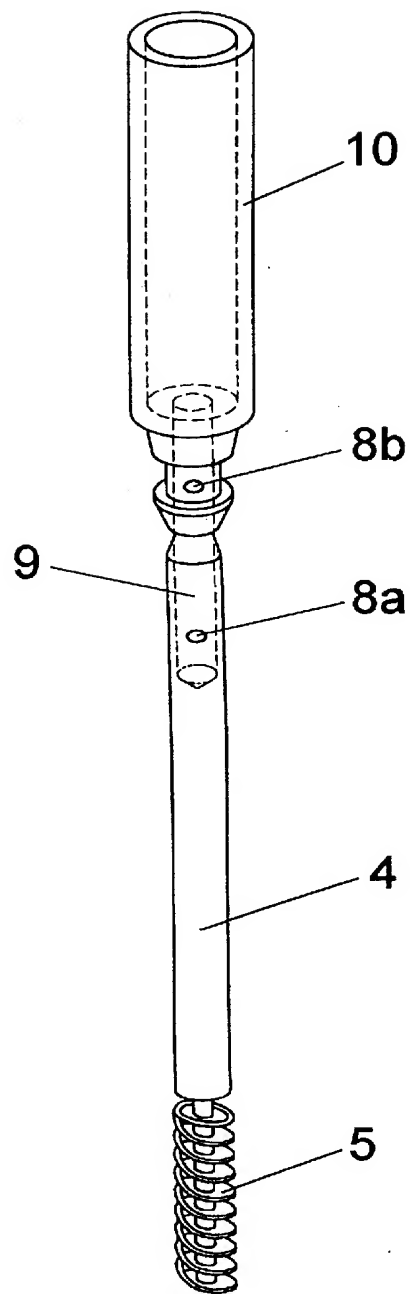
[図2]



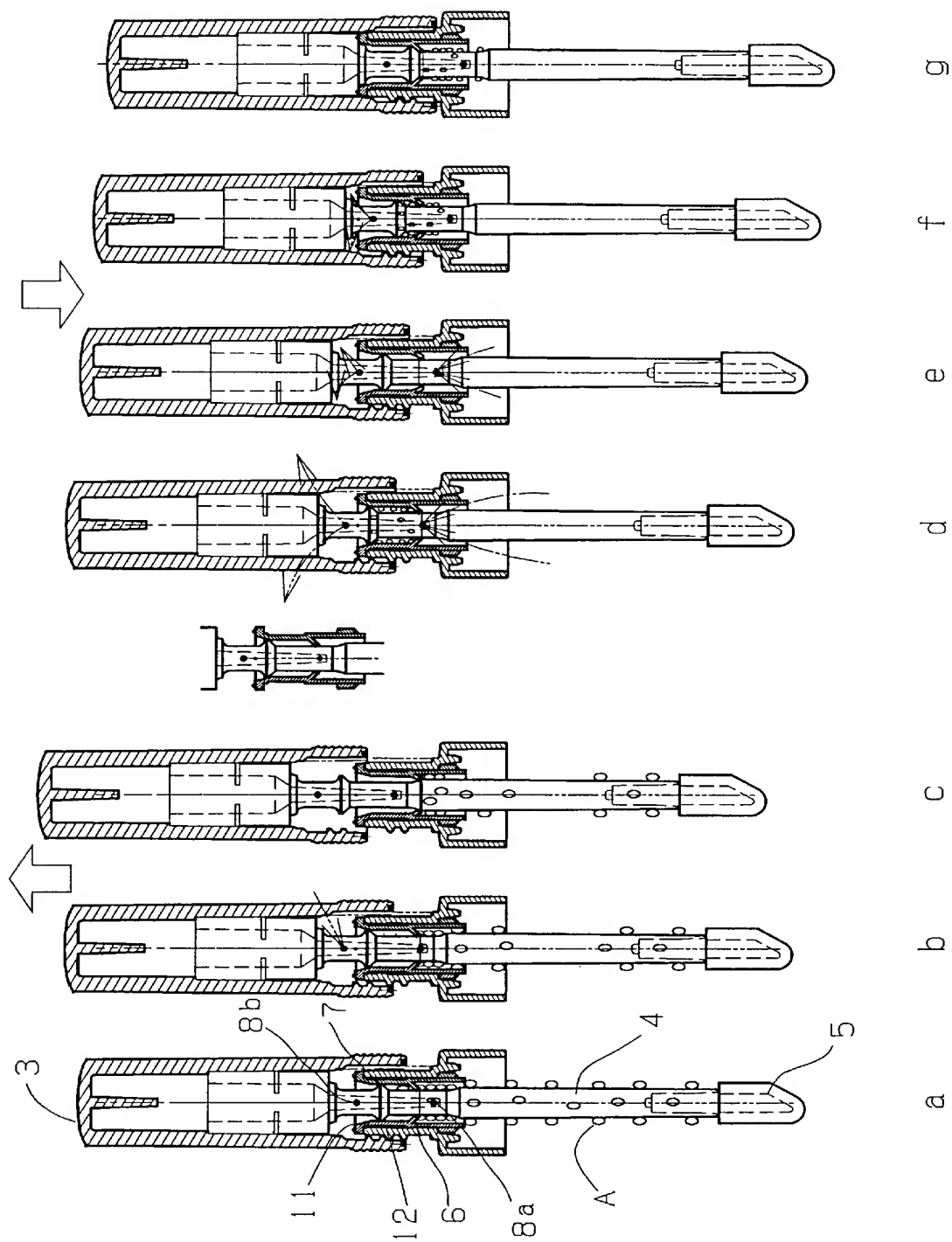
[図3]



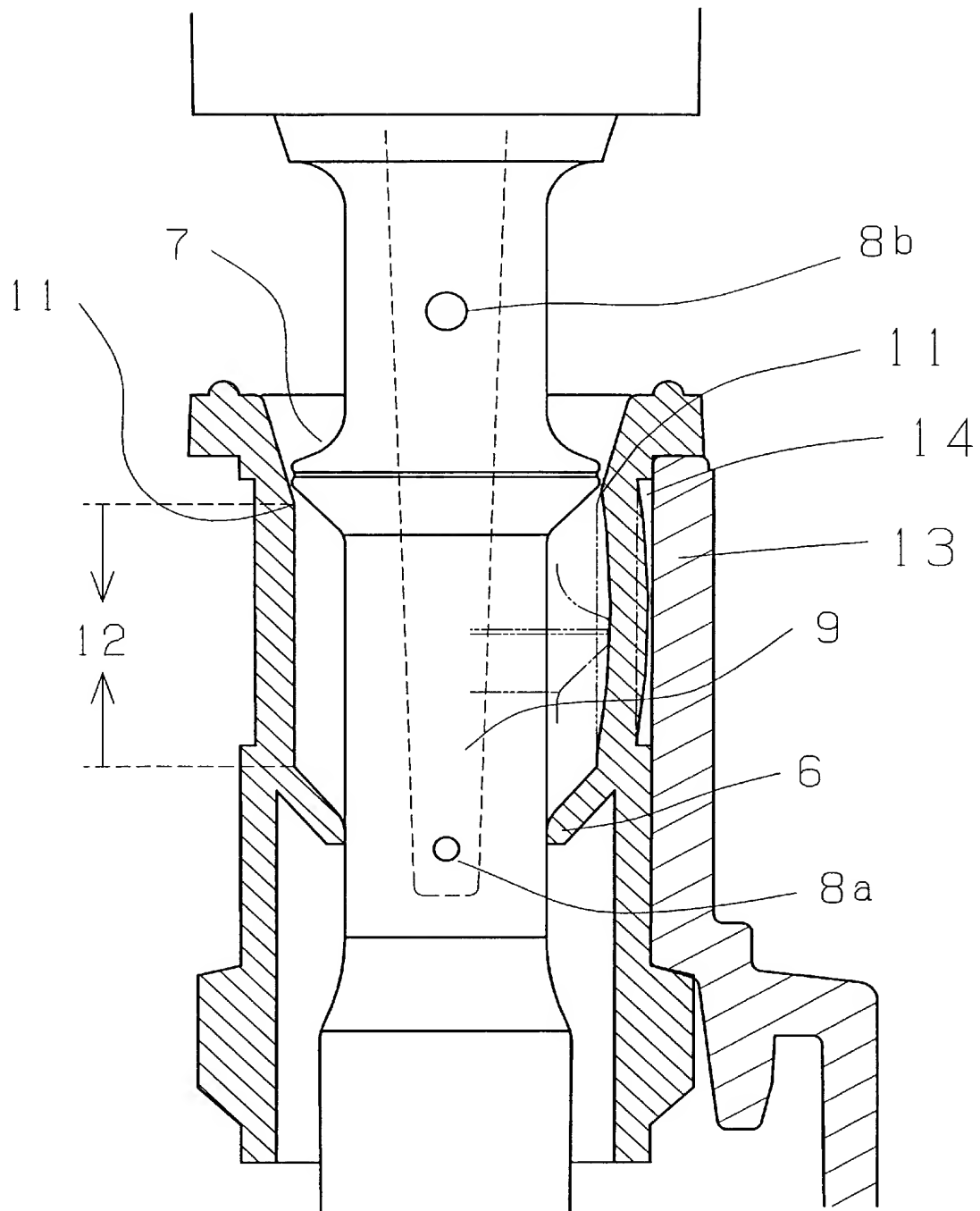
[図4]



[図5]



[図6]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/004629

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl.⁷ A45D34/04, B65D51/32

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl.⁷ A45D34/04, B65D51/32

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2005
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2005	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 120086/1981 (Laid-open No. 26408/1983) (Tokyo Parts Kabushiki Kaisha), 19 February, 1983 (19.02.83), Page 4, line 11 to page 6, line 8 (Family: none)	1-6 7
Y	JP 2003-339436 A (Yoshino Kogyosho Co., Ltd.), 02 December, 2003 (02.12.03), Par. Nos. [0011] to [0013] (Family: none)	1-6



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

14 June, 2005 (14.06.05)

Date of mailing of the international search report

28 June, 2005 (28.06.05)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/004629

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2002-209630 A (Kamaya Kagaku Kogyo Co., Ltd.), 30 July, 2002 (30.07.02), Par. Nos. [0020], [0021] (Family: none)	5

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ A45D34/04, B65D51/32

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ A45D34/04, B65D51/32

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y A	日本国実用新案登録出願56-120086号(日本国実用新案登録出願公開58-26408号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (東京パーツ株式会社) 1983.02.19, 第4頁第11行-第6頁第8行 (ファミリーなし)	1-6 7
Y	JP 2003-339436 A (株式会社吉野工業所) 2003.12.02, 段落0011-0013 (ファミリーなし)	1-6

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技术水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

14.06.2005

国際調査報告の発送日

28.6.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

富江 耕太郎

3R

9532

電話番号 03-3581-1101 内線 3386

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 2002-209630 A (釜屋化学工業株式会社) 2002. 07. 30, 段落 0020, 0021 (ファミリーなし)	5